

令和5年度
事業計画書

社会福祉法人
大山町社会福祉協議会

活動方針

【信頼】

地域に信頼される社協であるために
何事にも常に誠実である事に努めます。

【笑顔】

笑顔はじける職場から、世代をこえて
温もりがあふれるサービスの提供に努めます。

【安心】

相手の心に寄り添い、安心して暮らせる
福祉の町づくりに努めます。

【重点項目】

1	安定経営を目指し、全職員が経営意識を持って業務に取り組みます。
2	独立採算という考えの下、効率的で効果的かつ適切で安定した介護事業運営に努めます。
3	社会福祉協議会の事業理解に重点を置いた「会員・会費制度」についての理解促進を図ります。
4	地域自主組織、地域福祉関係者、地域住民等と連携協働しながら、大山町の地域課題解決に取り組みます。
5	地域福祉座談会の開催、ふれあいいいききサロンの普及並びに自主運営の促進により、小地域での福祉活動が発展するよう取り組みます。
6	災害などの発生に備え、災害ボランティアセンター設置模擬訓練の実施、大山町または関係団体との支援ネットワークの構築等、災害時に迅速に対応できる体制を整備します。

(5) 広報・啓発活動の充実

地域福祉活動の様子や介護、ボランティア活動に関する情報提供、地域福祉活動を推進していく上で住民等の意識の高揚に向けた啓発活動を推進します。また、若年層にも福祉や地域に興味を持ってもらうために SNS 等を利用した情報発信を行ないます。

①	ホームページの充実
②	SNS(フェイスブック、インスタグラム)の活用
③	広報紙「ほほえみ」の発行(年4回)
④	社協パンフレットの発行

(6) 生計困難者に対する相談支援事業(えんくり事業)の充実

家庭機能の変容や地域のつながりの希薄化、雇用形態の多様化にともない、複合的な生活課題を抱えているにも関わらず、制度に結びついていない、あるいは制度の狭間にあって必要な支援を受けられない等の課題を抱えた方に対する「えんくり事業」を実施します。

①	・えんくり事業相談員を配置し、関係機関等と連携しながら支援を行ないます。 ・必要に応じて経済的な支援(現物給付)を行ないます。
---	--

2. 生活支援体制整備事業の推進(町受託事業)

(1) 地域福祉座談会の開催

主に集落単位で座談会を開催し、日頃の見守り活動等地域の「支え合い」の仕組みづくりや「支え愛マップ」の説明により、災害時にも対応できる地域づくりを推進します。また社協事業の説明も併せて行ない、社協事業の広報および理解促進を図ります。

①	地域福祉座談会の開催(通年約20~30集落)
---	------------------------

(2) 地域福祉に関する課題解決の支援・推進

地域福祉活動の総合的な推進を図るため生活支援コーディネーターを配置し、調査活動により地域の福祉課題の現状把握に努めるとともに、地域自主組織等と協働して課題解決及び協議体構築を推進します。

①	第1層生活支援コーディネーターを1名配置 第2層生活支援コーディネーターを大山地区・名和地区・中山地区に各1名ずつ配置
②	有償ボランティア「ささえあいたい」事業の推進 ※登録ボランティア増に向けた取り組み
③	地域活動車「つな Go(ごう)カー」貸出事業の推進

(6) ボランティア活動の啓発及び育成の促進

ボランティア活動の理解を深めてもらうための啓発活動、研修や交流会等の開催、住民が参加しやすいプログラムの提案や開発に努めます。

①	ボランティアに関する相談・登録・斡旋(登録者増に向けた取り組み)
②	ボランティア団体等との情報共有・連携
③	ボランティア啓発活動 ・ボランティア活動情報の提供(広報紙・パンフレットの作成) ・町内清掃活動(クリーン作戦)の実施 ・ボランティアポイント制度「ささエール」導入(新規事業)
④	ボランティア育成・研修事業 ・企業向け手話教室(随時) ・託児ボランティア研修(年1回) ・災害救援ボランティア研修(年1回) ・各種研修会(県社協主催等)の参加促進

(7) 災害時に対応するボランティア活動の支援

自然災害等の発生時に備え、関係機関・団体等の連携・協力により、災害ボランティア活動の支援体制に向けた取り組みを進めます。

①	災害ボランティアセンター運営訓練の実施(年1回)
②	災害ボランティアセンター運営委員会の開催(随時) (※災害ボランティアセンター設置・運営に関する協定書締結)
③	県社協災害ボランティアセンター設置模擬訓練の参加

(8) 福祉教育の推進

学校関係者等との連携、調整を図り、地域における福祉に関するプログラムの提供、開発を進めます。また児童や生徒に学習機会を提供し、地域福祉やボランティアへの関心と理解促進のための各種事業を展開します。

①	福祉教育推進校への活動助成、支援(町内小中学校7校)
②	福祉教育推進校連絡会の開催(年1回)
③	夏休みチャレンジスクールの開催(年1回)
④	車いす体験・高齢者疑似体験などの体験講座の開催(随時)

(9) 福祉大会(福祉功労者表彰式)の開催

多年にわたり社会福祉の発展に功労があった方々の表彰や講演会などの内容で、福祉大会を開催します。

①	福祉大会(福祉功労者表彰式)の開催 ・社会福祉協議会長表彰 ・記念講演会
---	--

4. ふれあいのまちづくり事業の推進(町受託事業)

(1) 相談所の開設

日常の心配ごと、困りごと、福祉に関する問題等、地域住民の身近な相談所として「心配ごと相談」を開設し、専門機関等と連携し解決に繋がります。専門性の高い相談ごとについて、弁護士による「法律相談」を開設します。

①	民生委員による「心配ごと相談」の開設	毎月第2水曜日 午前9時30分～12時
②	弁護士による「法律相談」の開設	毎月第4水曜日 午前9時30分～12時

(2) 民生児童委員協議会等関係機関との連携強化

地域福祉を推進していくための共通理解を図る上で連絡会、研修会を開催し民生児童委員等、関係機関との連携強化に努めます。

5. 日常生活自立支援事業(県社協受託事業)

日常生活を営む上で、判断能力が低下した高齢者や障がい者が、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、関係機関と連携し福祉サービス利用手続きや、日常の金銭管理などの援助を行います。また、支援に関わる専門員や生活支援員の資質向上のため各種研修会や関係機関の連絡会に参加します。

また、利用希望者の判断能力や支援計画の適切さについて協議する独自の内部審査会を設置し、利用者に寄り添った支援を行います。

6. 生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

鳥取県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付の受付及び、低所得世帯等を対象に民生児童委員と連携した支援を行ない、生活の安定と意欲向上に繋がっていきます。また新型コロナウイルス特例貸付償還対応として、フォローアップ支援員を配置し、アウトリーチによる生活相談や償還に関する様々な制度説明など、借受人の生活再建に向けて支援を行ないます。

7. 共同募金活動及び配分金事業の推進

地域福祉活動、ボランティア活動支援のための民間資金として赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金活動を展開し、幅広い分野での効果的な運用に努めます。

①	赤い羽根共同募金活動(募金運動期間10月1日～)
②	歳末たすけあい募金活動(募金運動期間10月1日～)

10. 外出支援サービス事業(町受託事業)

要介護状態の高齢者や障がい者で、一般公共交通機関を利用することが困難な方などを対象に、通院のための送迎サービスを実施します。

11. 葬儀用祭壇の貸出

仏式・神式の葬儀用祭壇の貸出を行いません。(名和支所・中山支所)

※会葬礼状の一部負担(各支所にて対応)

12. 福祉バスの運行(町補助事業)

大山支所(本所)で福祉バスを保有し、地域福祉・ボランティア活動等に運行します。

13. 福祉センターの運営管理(町指定管理)

町から指定管理者の指定を受け、保健福祉センターだいせん、福祉センターなかやまの運営管理を行います。

14. 福祉団体の活動支援と連携

自主的、自発的な組織運営におけた老人クラブ活動の支援を行うとともに、地域ネットワーク活動の担い手としての促進を図ります。また、障がい(児)者団体の自主的な活動におけた支援を行います。

①	大山町老人クラブ連合会および各支部の事務と活動支援
②	老人クラブの友愛活動と連携した小地域見守り活動の推進
③	大山町身体障がい者福祉協会の事務と活動支援
④	大山町手をつなぐ育成会の事務と活動支援
⑤	西伯郡身体障がい者福祉協会の事務と活動支援

Ⅱ 生活困窮者自立支援事業（県受託事業）

1. 自立相談支援事業（必須事業）

多様で複合的な課題を抱える生活困窮者に対し、自立相談窓口を設置し各関係機関と連携した対応に努めます。一人ひとりの状況に合わせた支援プランを作成し、相談者に寄り添いながら解決に向けた支援を行ないます。

2. 就労準備支援事業（任意事業）

ひきこもり、疾病、障がい等により早期の就労が困難な方に対し居場所や就労体験の場を提供し、自立を意識し段階的支援に取り組めます。一人一人にあった個別のプログラムを提案し、地域の事業所等とも連携して体験場所の充実に努めます。

3. 家計相談支援事業（任意事業）

家計状況の「見える化」と根本的な課題を把握し、相談者が自ら家計を管理できるよう、状況に応じた支援計画の作成、相談支援、関係機関へつなぎ、早期の生活再建を目指します。

4. 子どもの学習支援事業（任意事業）

様々な家庭環境により学習習慣が身につけていない児童生徒等を対象に、子供たち一人ひとりの状況を配慮した「個別支援型の学習支援」に取り組めます。学校・行政・家庭と連携を密にし「負の連鎖」を防止するためにも、学習だけでなく日常的な生活習慣に対しても寄り添った支援に努めます。

5. 食料緊急支援事業（フードパートナー事業） ※独自事業

食べるものが無い、食料を買うお金が無いなど、緊急的な食料支援が必要な方に対し、地域住民等の協力を得て一時的な食料支援を行なうことにより、当事者の生活をサポートします。

Ⅲ 介護保険事業及び障がい福祉サービス事業

1. 居宅介護支援だいせん

1. 支援方針	利用者の想いや意欲を大切にして、本人そして家族も含めて「その人らしい暮らし」ができるよう自立支援・重度化防止を念頭に置いたケアプランを作成します。また関係機関等とも連携、協力を行ないます。
2. 特徴	24時間連絡体制を整備し、主任介護支援専門員を配置。緊急及び困難事例にも対応し、質の高いケアマネジメントを行ないます。 ・ケアマネージャー 常勤職員4名
3. 事業目標	一人あたりの平均担当ケース 35件
4. 業務改善等	・居宅部会の開催(毎週1回) ・ヒヤリハット及び相談苦情受付票の活用と分析
5. 専門性向上	・研修担当の配置 ・計画的な研修会の企画、参加 ・町内居宅事業所との合同研修会の開催
6. 関係機関連携	・サービス担当者会議の開催(随時) ・地域ケア会議への参加(随時) ・医療等関係機関でのカンファレンス参加 ・地域包括支援センターとの連携

2. 訪問介護だいせん

支援訪問介護だいせん※障がい福祉サービス

1. 支援方針	<p>(訪問介護)</p> <p>介護を必要とする利用者が、住み慣れた家で介助を受けて自分らしく生活できるよう「生活の質の向上」「自立支援」を基本的な目的とし、身体介護・生活援助等の質の高い介護サービスの提供に努めます。</p> <p>(支援訪問介護)</p> <p>障がい者が、健康的かつ精神的に安定した日常生活を営むことができるよう、利用者の置かれている環境を理解し「自立支援」を目標に、身体介護や生活援助等を行います。</p> <p>介護及び障がい福祉サービスともに関係機関との連携を図り、迅速で的確なサービス提供に努めます。</p>
2. 特徴	<p>介護福祉士資格を5割以上の職員が取得し、質の高いサービスが提供できます。</p> <p>・職員数7名(常勤職員3名、非常勤職員4名)</p>
3. 事業目標	<p>(介護・総合事業) 訪問月間利用者数:55名</p> <p>(障がい福祉サービス) 訪問月間利用者数:10名</p>
4. 業務改善等	<p>・ヒヤリハット及び相談苦情受付票の活用と分析</p> <p>・各種マニュアルの見直し</p>
5. 業務効率向上	<p>・訪問編成の見直し</p> <p>・請求及び会計事務の効率化</p> <p>・訪問介護計画及び訪問介護記録の効率化</p>
6. 専門性向上	<p>・研修担当の配置</p> <p>・計画的研修会への参加</p> <p>・事業所内勉強会の実施</p>
7. 関係機関連携	<p>・サービス担当者会議(随時)</p> <p>・地域ケア会議(随時)</p> <p>・医療関係機関でのカンファレンス参加</p>

3. 通所介護だいせん

支援通所介護だいせん※障がい福祉サービス

1. 支援方針	<p>(通所介護)</p> <p>要介護及び要支援利用者が可能な限り自宅で自立した生活を送ることができるよう食事や入浴、日常生活上の支援を行います。又、機能訓練を実施し、利用者の心身機能の向上と家族の負担軽減を図ります。</p> <p>(支援通所介護)</p> <p>障がいのある利用者が食事・入浴等の介護を受け、日常動作訓練を実施し、機能向上のための支援を行います。また通所介護事業(介護保険事業)と一体的に運営する事により、高齢者と障がい者の交流にもつなげていきます。</p>
2. 特徴	<p>介護福祉士資格を5割以上の職員が取得し、質の高いサービスが提供できます。</p> <p>・職員数14名(常勤職員5名、非常勤職員9名)</p>
3. 事業目標	<p>月間利用者数:約680名(一日平均34名 介護及び支援通所介護合算)</p> <p>※年間延べ利用者数:約8,160名</p>
4. 業務改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット及び相談苦情受付票の活用と分析 ・各種マニュアルの見直し
5. 業務効率向上	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担の見直し及び適正化 ・請求及び会計事務の効率化 ・通所介護計画及び介護記録の効率化
6. 専門性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研修担当の配置 ・計画的研修会への参加 ・事業所内研修会の実施
7. 関係機関連携	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議(随時) ・地域ケア会議(随時) ・医療関係機関でのカンファレンス参加 ・運営推進会議の開催(年2回)

4. 地域密着型通所介護ほほえみ

1. 支援方針	要介護及び要支援利用者が可能な限り自宅で自立した生活を送ることができるよう食事や入浴、日常生活上の支援を行います。又、機能訓練を実施し、利用者の心身機能の向上と家族の負担軽減を図ります。
2. 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごすことができます。 ・介護福祉士資格を5割以上の職員が取得し、質の高いサービスが提供できます。 ・職員数10名(常勤職員2名、非常勤職員8名)
3. 事業目標	<p>月間利用者数:約340名(一日17名平均)</p> <p>※年間延べ利用者数:約4,080名</p>
4. 業務改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット及び相談苦情受付票の活用と分析 ・各種マニュアルの見直し
5. 業務効率向上	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担の見直し及び適正化 ・請求及び会計事務の効率化 ・通所介護計画及び介護記録の効率化に係る検討
6. 専門性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研修担当の配置 ・計画的研修会への参加 ・事業所内研修会の実施
7. 関係機関連携	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議(随時) ・地域ケア会議(随時) ・医療関係機関でのカンファレンス参加 ・運営推進会議の開催(年2回)

5. サポートセンターだいせん※指定(特定・一般)相談支援事業・指定障害児相談支援事業

1. 支援方針	<p>(特定相談・障害児相談支援事業)</p> <p>アセスメントに基づき、地域における障害福祉サービスが提供される体制を勘案して、利用者及びその家族の生活に対する意向、総合的な援助の方針、生活全般の解決すべき課題など必要な情報提供や助言を行います。また、関係機関と連携を図りながらインフォーマルな支援を含めたサービス等利用計画を作成し、利用者が安心して自立に向けた生活が送れるよう支援します。</p> <p>(一般相談支援事業)</p> <p>障害のある人が、地域において自立した生活又は、社会生活を営むことができるよう一般相談を実施していきます。</p>
2. 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の相談支援専門員を2名配置し、質の高い支援を実施しています。 (強度行動障害支援者養成、精神障害者地域移行支援者研修修了者を配置)
3. 支援目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者を含め100名程度の計画相談が担当できるよう新規ケースや困難ケースを積極的に受け入れます。 ・新規事業として『大山町障害福祉サービス利用コーディネート機能強化事業』に取り組み、年間概ね8名以上の新規獲得を目指します。 ・相談支援技術のスキルアップに努め、質の高い、信頼される事業所となるよう努めます。
4. 専門性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研修担当の配置 ・計画的研修会への参加
5. 関係機関連携	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議(随時) ・鳥取県西部障害者自立支援協議会「子ども部会」(年2回程度) ・相談支援の充実を図るための連絡会(毎月) ・支援センター連絡会(毎月) ・大山町相談支援連絡会(年6回)